

平成 25 年度保護管理レポート目次案

1. はじめに
2. このレポートの目的
3. 捕獲に関するモニタリング状況、活用状況について（アンケート結果より）

【許可捕獲に関するモニタリング】

- ・ 許可捕獲に関して複数のモニタリング項目を設けている県は少ない
- ・ モニタリングの結果は、生息状況の把握として活用されているという回答が多かった

課題 特定計画上の記載や方針として、農地周辺での加害個体や成獣、繁殖可能個体の捕獲が重要であるとしている県が多いにも関わらず、捕獲の実施状況を質的に把握していない。

【狩猟に関するモニタリング】

- ・ 狩猟については約半数の県が CPUE および SPUE を算出
- ・ モニタリングの結果は生息分布状況の評価や予察捕獲の検討材料として活用されている他、特定計画の説明資料や参考資料などにも活用
- ・ シカに比べてモニタリング結果が活用されていないと回答した県が多い（約 3 割）

課題 CPUE や SPUE に対する理解が不十分であり、活用されていない可能性がある。

→ 使い方と限界について解説

→ 実用事例の紹介（他指標との組み合わせ：兵庫県の事例）

4. 捕獲の実施状況の質的評価

- ・ 捕獲個体の成長区分（成獣、幼獣）を把握することの重要性（成獣個体を捕獲することの重要性）
- ・ 幼獣捕獲率の評価の実際（幼獣の判定法等）
- ・ データの活用方法
- ・ 行政の施策展開事例

被害を効率的に低減するための捕獲方法（コラム）

- ・ 捕獲場所について（加害個体の行動圏等）
 - 専門家ヒアリング：山梨県総合農業技術センター本田氏
- ・ 捕獲方法について具体的に紹介（イノシシの行動から見た捕獲の理論と方式）
 - 専門家ヒアリング：近畿中国四国農業研究センター江口氏